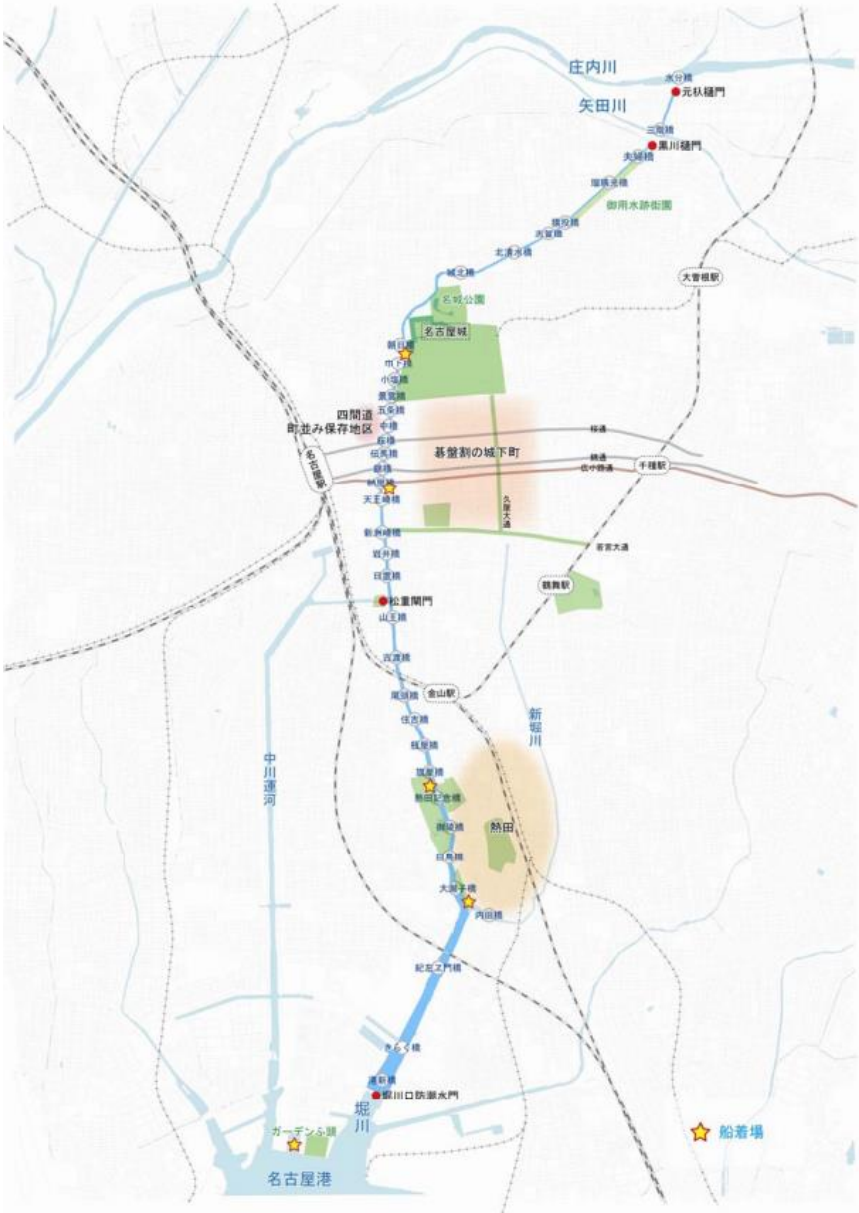
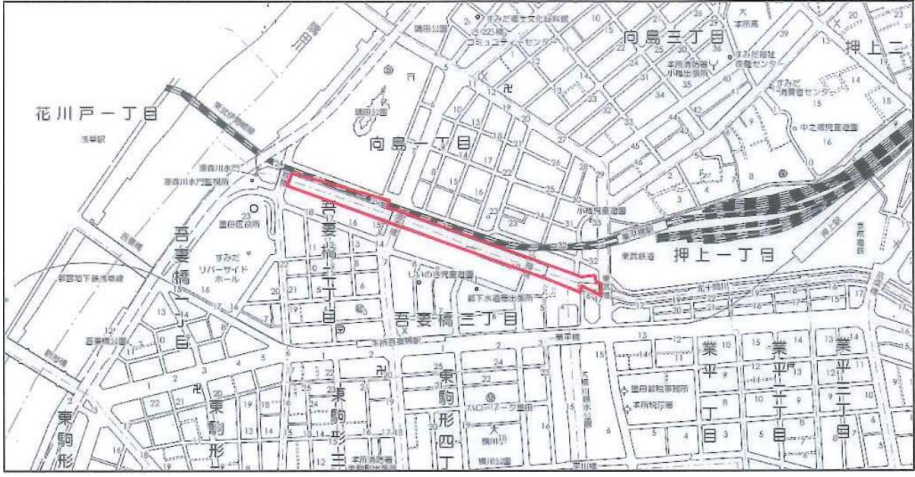


国内の先進事例

取組名	堀川まちづくり構想
対象範囲	<p>名古屋市中心部を流れる堀川沿川</p>  <p>The map illustrates the Kikyo River (堀川) flowing through the center of Nagoya. Key locations marked include Nagoya Castle (名古屋城), the Kikyo River (堀川), and various districts such as Sakasabashi (椿屋割の城下町) and Nishu (熱田). The river is shown in blue, and the surrounding urban area is depicted with roads and building footprints. A star icon indicates a boat landing (船着場) near the river's mouth at Nagoya Port (名古屋港).</p>
内容	<p>基本理念「“うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び」をもとに産学民官が連携し、まちづくりと一体となった堀川沿川の効果的な利活用を目指す。川・橋梁を大正時代の雰囲気が出るようライトアップ、橋詰空間での親水空間の整備などを自治体が行っている。また、将来の舟運の定期船運行に向けた船着場の整備なども構想の中には入っている。</p> <p>市民団体主催のイベントを整備を行った川沿いのプロムナード沿いで行っているほか、沿川建物から川へ張り出したテラスの整備などを行っている。</p>

<p>参考写真</p>	 <p>△ライトアップの様子</p>	 <p>△橋詰空間の親水広場整備</p>
	 <p>△小型舟を利用した観光舟運</p>	 <p>△イベント時のライトアップ</p>
	 <p>△沿川建物のテラス利用</p>	 <p>△テラスに設けられたイベント空間</p>
<p>連動する 計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・堀川総合整備構想 ・堀川圏域河川整備計画 	

取組名	北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業	
対象範囲	とうきょうスカイツリー駅～隅田公園・北十間川沿川 	
内容	<p>東京都・墨田区・東武鉄道が連携しスカイツリーと浅草を回遊する歩行者ネットワークの一部として整備。公園・河川・道路・高架下店舗を一体として整備。</p> <p>北十間川に親水テラスと一体となった歩行者通路・店舗を設け、道路整備に合わせて架け替えた橋梁近辺に船着場を設置。</p> <p>また、河川法の「都市及び地域の再生等のために 利用する施設に係る占用の特例」を用いて河川敷地内に親水テラスを建設、及び浅草方面に隅田川を横断し連絡する人道橋「すみだリバーウォーク」を架橋している。</p>	
参考写真	 <p>△整備された親水テラス</p>	 <p>△新設された船着場</p>
	 <p>△隅田川にかかる人道橋</p>	 <p>△テラスの利用風景</p>

取組名	とんぼりリバーウォーク	
対象範囲		
内容	<p>平成13年に水都大阪の再生が都市再生プロジェクトに指定されたことを受け、地元協議会を中心に水面上に遊歩道を設置する計画が立ち上がった。その後、社会実験ののち河川管理者である大阪市から都市・地域利用等再生区域に指定され、全面開業した。</p> <p>河川の占有に関しては大阪市から事業者（現在は南海電鉄）が占有許可を得て、管理を行っている。</p> <p>河川に面した店舗を持つ事業者がオープンカフェなどを実施し、遊歩道完成後は間口を河川に向ける店舗、オープンカフェの実施件数ともに大きく増大している。</p>	
参考写真	 <p data-bbox="512 1570 762 1603">△整備前の道頓堀川</p>	 <p data-bbox="895 1570 1342 1603">△整備後のとんぼりリバーウォーク</p>
	 <p data-bbox="443 1951 831 1984">△イベント時のオープンカフェ</p>	 <p data-bbox="1023 1951 1225 1984">△事業スキーム</p>

取組名	β 本町橋・水辺の賑わい拠点づくり
対象範囲	
内容	<p>大阪市の水都再生プロジェクトの一部として、飲食店・レンタルスペース・水上アクティビティ拠点として令和3年に整備。</p> <p>隣接する緑道公園と一体となったマルシェの開催、付近の清掃なども事業者が行っている。</p> <p>一方で、レジャーとしては係留した船をレンタルスペースとして貸し出しや、SUPやカヌーなどの水上アクティビティを高架下という全天候型の空間を活かして展開している。</p>
参考写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="432 1518 820 1800">  <p style="text-align: center;">△ β 本町橋</p> </div> <div data-bbox="884 1487 1353 1778">  <p style="text-align: center;">△ SUP 体験の様子</p> </div> </div>

海外の先進事例

都市名	オーフス（デンマーク）
概要	<p>デンマーク第二の都市であるオーフスでは、1930年代に自動車交通の増加に伴い市内を流れていたオーフス川が暗渠化され、その上に幹線道路が建設された。</p> <p>その後、デンマーク国内では都市内交通政策の転換が図られ、都市の中心部から自動車交通を排除する取組が行われた。</p> <p>オーフス市でも、暗渠を再び開渠化し歩行者・自転車向けの道路に転換する計画が1994年に決定した。</p> <p>現在では川の大部分が開渠化され、土地利用も転換し川沿いにレストランやバー、カフェなどが立ち並ぶウォーターフロントの落ち着いた景観の中で市民が楽しむ都市空間となった。</p>
参考写真	 <p>▲川沿いに設けられたオープンカフェで楽しむ多くの人々</p>  <p>▲親水空間、小型の観光船も通るオーフス川</p>

都市名	ボルドー（フランス）
概要	<p>フランスのボルドーに流れるボルドー川の左岸では、20世紀初頭にかけて港湾施設と道路を区切る鉄柵が設けられ、港湾地区内は様々な施設が雑多に立ち並び、中心市街地と港湾地区との断絶は深まっていた。</p> <p>1980年代から、港湾地区の整理が始まり、鉄柵の撤去とともに再生計画が立ち上がった。</p> <p>この計画は地区の名前を取りガロンヌ河岸再生計画と呼ばれ、広大な川沿いのエリアを公園化し、交通流入を制限するとともに都市を利用する人に広く開放されるスペースとして整備する計画であった。</p> <p>この事業の結果、余暇を市外で過ごすことが多かった市民が市内で過ごすようになっただけでなく川沿いだけでなく旧市内にも来訪者が訪れるようになった。</p>
参考写真	<div data-bbox="529 947 1214 1456" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="762 1473 981 1505">▲川辺で憩う人々</p> <div data-bbox="529 1514 1214 1895" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="577 1906 1166 1937">▲整備により完成した「水の鏡」というアート</p>

都市名	清溪川再生事業（韓国・ソウル）
概要	<p>ソウル市内を東西に縦断するように流れる清溪川（チョンゲチョン）は、李氏朝鮮時代初頭から周辺住民の生活排水が流入し、さらに朝鮮戦争後には川沿いにスラムが形成されてしまった。ソウル市は清溪川を暗渠化し、住民を強制移住させるとともに暗渠の上に高速道路を 1971 年に完成させた。</p> <p>その後 2000 年代に入り、清溪川の水の流れを再生させる計画が立ち上がった。この計画では高速道路を撤去し、河川を開渠化するとともに水質の改善を行い、川沿いには歩行者が滞留できるような空間を設けた。</p> <p>結果として、市内へのアクセス性の良さ、空間のデザイン性の高さが評価されソウル市民だけでなく、海外からも観光客が多く来訪するようなソウルのシンボリック空間に生まれ変わった。</p>
参考写真	<div data-bbox="596 853 1145 1211" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="603 1234 1139 1267">▲事業開始前高速道路が上空を通る清溪川</p> <div data-bbox="596 1301 1158 1727" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="592 1760 1153 1794">▲親水空間へと生まれ変わった現在の清溪川</p>

取組名	パリ・プラーージュ (フランス・パリ)
概要	<p>パリのセーヌ川岸、ルーブル美術館側の川岸は長く自動車専用道路が通っていた。</p> <p>その区間を夏の期間だけ、人工的なビーチのような空間にするという取り組みが 2002 年から行われてきた。これは、夏の間パリから脱出できない人々向けにビーチのような体験をしてもらいたいという趣旨の下行われ、パリの夏の風物詩となっていた。</p> <p>2016 年から半年間、この区間から自動車交通を排除する市主体の実験が行われ、裁判などにも発展したが結果的に市側の主張が認められ、自動車専用道路は廃止され、歩行者用の空間へと姿を変えた。</p> <p>歩行者が一切立ち入れなかった空間から歩行者専用の空間に変貌したことで、セーヌ川沿いの風景は人中心の空間に変貌を遂げた。</p>
参考写真	<div data-bbox="571 891 1177 1227" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="662 1232 1085 1265">▲パリ・プラーージュ開催中の様子</p> <div data-bbox="555 1276 1193 1702" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="662 1713 1085 1747">▲歩行者空間となったセーヌ川岸</p>